

<p>2.Oral Introduction</p>	<p>・「概要をとらえるための視点」を書いたプリントを配る (NO.1) ・音声を消したビデオを使って物語の概要を説明する</p>	<p>JTE AET</p>	<p>・ビデオとAETの説明を聞きながら聞き取った内容をプリントで選択する</p>
<p>This story is about Itaru Nonaka and his wife. Itaru was thinking of building a weather station on the top of the highest mountain in Japan. With the help of mountain guides, he was able to build a small weather station on Mt. Fuji in 1895. His work at the station was very difficult. Every day he recorded the temperature, air pressure, wind direction, and so on. He had to get up every two hours at night. His wife helped him very much. When the cold winter came on the top of the mountain, Itaru became sick. It was so cold that some of the instruments broke down. But they did not give up. Today, few people know about the work Itaru and his wife did. But, thanks to them, a permanent weather station was finally built on Mt. Fuji in 1932.</p>			<p>① 登場人物は誰ですか (二つ以上選んでもよい) No.1 ア. いたる イ. いたるの妻 ウ. いたるの妻 エ. いたるの息子 ② 場所はどこですか ア. 吾妻山 イ. 富士山 ウ. 三厘山 エ. 借夫山 ③ いっごうのお話だと思いませんか ア. 江戸 イ. 明治 ウ. 大正 エ. 昭和 ④ 主人は山頂でどんな仕事をしていますか ア. 気象観測を記録する イ. 本を切る ウ. 天候を記録する エ. 山に登る ⑤ 1932年、その山頂に建てられたものは何ですか ア. 別荘 イ. 気象観測所 ウ. 山小屋 エ. 天候観測所</p>
<p>3.Check of Rough outline</p>	<p>・机間巡視しながら、選択枝の解答を与え、誤答の生徒には補助質問でフィードバックしながら正答に導く</p>	<p>JTE</p>	<p>・自分の誤答の訂正をする</p>
<p>4.Silent Reading for Comprehension</p>	<p>・「内容理解のための視点」を書いたプリントを配る (NO.2)</p>	<p>JTE</p>	<p>・「内容理解のための視点」(NO.2)にそって熟読し、それぞれの質問に対する答えを予想する</p>
<p>ア. Was Itaru thinking of building a weather station? イ. Who helped Itaru to build the weather station? ウ. Did Chiyoko come up to Itaru? エ. What did Itaru tell Chiyoko to do? オ. Did Chiyoko learn to do almost all her husband's work?</p>			<p>カ. Was the life there easy or difficult? No.2 キ. What did Itaru decide to do finally? ク. Do people know about Mr.and Mrs.Nonaka's work?</p>
<p>5.Watching T.V.</p>	<p>・音声の入った物語のビデオを見せる</p>	<p>JTE</p>	
<p>6.Questions and Answers</p>	<p>・本文の内容についてNO.2のプリントの視点にそって質問する</p>	<p>AET, JTE</p>	<p>・本文の内容についてAETの質問に答える</p>
<p>7.Consolidation</p>	<p>・物語の本文を音読する</p>	<p>AET</p>	<p>・AETの後について音読する</p>

※ (第1時では、指導過程の1~4まで、第2時では、5~7までやることが望ましい)

6. 指導上の配慮事項

- (1) 「概要」を把握させる手段や方法はいろいろ考えられるが、ここでは導入時に新出語句を扱わず、AETのOral IntroductionによるRough outlineの把握を試みる。
- (2) 英語学習は場面設定が大切である。そこでビデオにより、その場面設定を明瞭にする。ビデオの使用によって学習への意欲づけを図りたいと考えるからである。
- (3) 内容理解を確かなものにするため、「概要をとらえるための視点」を提示し、それによってポイントをおさえた読みができるようにする。このアプローチは生徒に「読むこと」の前段階として目的を持たせることにより、生徒を積極的に「読むこと」に取り組ませるのに有効であると考えた。
- (4) 内容理解のCheckには、「内容理解のため

の視点」に基づくQ&Aを行う。ここでは、AETが中心となるが、生徒が誤答した場合は、内容理解を確認しつつ英問英答や和問和答も適宜使いわけながら、JTEが正答に導くように配慮する。(JTEの複数の補助発問が必要である)

7. おわりに

ここで述べた具体例は、略案であり、あくまでも試案である。生徒の実態により、Musicの導入などいろいろな方法が考えられる。

現在行われているチーム・ティーチングによる指導例の多くは、「聞くこと、話すこと」に重点を置いたものであるが、AETを活用する意味からも、今後は、「読むこと」、「書くこと」の領域での利用も含めた指導方法や指導過程を研究開発していく必要があると思われる。